

患者さんの体調により
医師が必要な薬を
処方します。

医療機関から薬局へ

処方せんを確認し、
薬剤師が準備
患者さんへ説明します。



かぜ薬などの市販薬を
買いに来たお客様に
症状などを聞き、
体調に合わせて
適した薬をすすめて、
相談に乗ったりして、
必要な薬を販売します。

学校薬剤師

児童生徒が健康で安全に学校生活を送れるよう、学校環境の衛生管理などの仕事をします。大学を除く、全ての学校に必ず学校薬剤師がいます。

- 教室の環境チェック（騒音、照明など）
- プールの水質検査
- 薬品の管理状態の確認
- 給食室・保健室の衛生チェック
- 薬物乱用防止教室の実施

薬剤師の
活躍のフィールドは
他にもたくさん！
詳しくはこちらへ



保護者の
みなさまへ

薬剤師の将来性は？

薬剤師は、研究開発や製造管理、調剤、販売など医薬品に関するあらゆる業務に携わることのできる国家資格者です。薬局を開業するケースもあります。超高齢化が進む日本では、外来診療から在宅医療や介護へのニーズが高まっており、こうした中で、薬剤師は今後も重要な役割を担う職種として期待されています。「日本薬剤師会」では、そんな薬剤師・薬学生の皆様のさまざまな形でサポートしています。健やかな日本の未来のためにも、「薬剤師」という職種をお子様の将来の選択肢の一つとしてお考えいただければ幸いです。

「かかりつけ薬剤師・薬局」が注目されています。

かかりつけ薬剤師になるには、実務経験の他に国が定めた要件を満たす必要がありますが、それらは薬剤師の実績となりキャリアアップにも繋がります。一人の薬剤師が、一人一人の患者様の薬の情報などを把握し、治療をサポートする、かかりつけ薬剤師は今後ますますニーズが高まっていくでしょう。

「かかりつけ薬局」では
飲んでいる薬を全て管理



東京都新宿区四谷3-3-1 四谷安田ビル7F



中学生の
みなさんへ

親子で知る 薬剤師のお仕事

日本薬剤師会からのお知らせ



ふあみん



日本薬剤師会
公式キャラクター

薬剤師のお仕事

病院や薬局で薬の管理・調剤を行う職業です。また、製薬会社で薬の研究・開発などに携わる人もいます。身近な薬の専門家として、薬についての相談や、正しい飲み方のアドバイスをすることも大切な仕事です。

皆さんが病気になるたとき、怪我をしたとき



医療機関へ



薬局へ



皆さんの身近で
薬剤師は活躍して
いるよ！

製薬会社の薬剤師

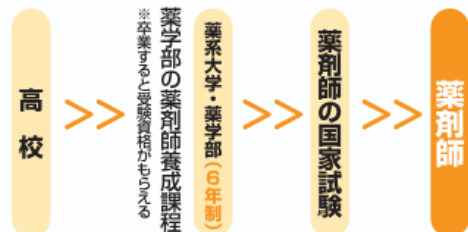
製薬会社で薬の研究・開発などに携わる薬剤師です。



薬剤師になるには

薬剤師は、国家資格です

薬剤師を目指すなら、6年制の薬学部に進学し薬剤師の国家試験に合格することが必要です。



薬剤師に求められている社会的役割はとても広く薬剤師法の第1条では次のように定められています。

「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。」

薬剤師の主な仕事には、薬の調剤や、薬を渡すときの服薬指導や情報提供、OTC医薬品に関する相談対応などがあります。しかし、薬剤師の役割はそれだけでなく、地域住民一人ひとりの健康づくりにも貢献することが求められています。

※英語の「Over The Counter: オーバー・ザ・カウンター」の略で、カウンター越しにお薬を販売するのちに由来しています。

薬剤師に聞いてみた！ みなさんへのメッセージ

薬剤師になろうとしたキッカケ、中学生で準備しておくことをインタビューしました。



薬剤師歴2年

キッカケは高校生のとき、骨折による通院でした。高校生の時、部活中に足を骨折してしまい通院することに。上手く動けないし辛い気持ちになっていたのですが、薬局でお薬の効き目や使い方を教えてもらったとき、薬剤師さんが優しく励ましてくれて涙があふれそうになりました。ちょっとした一言に感動し素敵な仕事だな、薬剤師を目指してみようかなと、この時思いました。

時間よりも「集中して勉強する習慣」を身につけて

高校の大学進学実績を調べて、薬学部に進学している先輩が多いかを確認するとよいですよ。また、理系に強い高校一覧なども検索で確認してみる方法もあります。ぜひ時間よりも「集中して勉強する習慣」を身につけてください。高校での勉強に備えて、中学生のうちから理科、数学、英語は力を入れて勉強しておくことは必要だと思います。



薬剤師歴3年

地域での薬剤師の活躍

スポーツファーマシスト

スポーツファーマシストは、薬やサプリメントに関する知識でアスリートを支える専門家です。選手が誤ってドーピングにあたる薬を使わないように、医薬品やサプリメントの相談に応じたり、正しい情報を伝えます。市販の風邪薬の中にも禁止成分が含まれていることがあり、知らずに使うと出場停止になることもあるため、専門的なサポートが必要です。選手の健康とスポーツの公平性を守るために活動しています。

在宅医療

通院が難しい患者さんの自宅を訪問し、薬の管理や使い方の確認を行います。医師や看護師などと連携しながら、安心して自宅で治療が続けられるよう支えます。また、最期を家で迎えたいという希望に応える「終末期ケア」や「看取り」の場面でも、痛みを和らげる薬の調整などを通じて、ご本人と家族に寄り添ったサポートを行っています。

災害支援

災害発生時に薬剤師は避難所で薬の供給（調剤）や相談対応、感染症予防のための衛生指導を行い、被災者の健康を支えます。近年では、薬局機能を備えた車「モバイルファーマシー」で被災地に駆けつけ、薬の供給（調剤）や服薬指導を行うなど、どんな状況でも医療を届ける役割を果たしています。



健康相談

薬を渡すだけでなく、体調や健康の相談にも応じます。「この薬を他の薬と一緒に飲んで大丈夫？」「最近眠れない」など、日常の悩みにアドバイスします。また、地域の健康イベントに参加し、血圧測定や生活習慣病予防の情報提供も行います。薬局は、誰でも立ち寄れる「まちの健康相談所」として、地域の健康を支えています。

薬は正しく使いましょう

すべての薬には「主作用」と「副作用」があります。

薬は病気やけがの症状をよくするために使われます。効果（主作用）を得るためには、薬のはたらきとそのリスク（副作用）を理解し、医師や薬剤師の指示に従って正しく使うことが大切です。薬を使ったときにいつもと違う症状があったときは、すぐに医師・薬剤師、保護者などに相談しましょう。

薬を服用するときのルール

自分でもらった薬以外、絶対に飲まない。

他の人にはよく効いた薬でも、自分には合わず、体調が悪くなる場合があります。

薬は水かぬるま湯で飲みましょう。

お茶やジュースなどで飲むと、薬の効きめが変わってしまうことがあります。

服用量を守りましょう。

薬の量や飲む回数を守りましょう。薬はたくさん飲めば早く治るというものではありません。決められたとおりに飲むことが大切です。

